

第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
2015年6月13日(土)～14日(日)
@つくば国際会議場(茨城県つくば市)

プレコンGRESワークショップ7	
タイトル	community-based medicine を学ぼう
日時	6月12日(金) 18:00-20:00
企画責任者	廣瀬 英生 (公募企画)
定員	30名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>岐阜県郡上市和良町で作成し実践されている PRECEDE-PROCEED モデルをベースにした健康福祉計画「まめなかな和良21プラン」を通じて地域を診る方法を議論する。まず始めにプランの実例を紹介し、こうしたプロセスを地域で実践するための課題やその解決策を議論する予定である。</p>	
<p>【概要】</p> <p>家庭医療あるいは地域医療の重要性は強調されるものの医療従事者はなかなか医学モデルから抜け出すことが難しい。Community-based medicine は目の前の患者さんをその地域に生活する一人としてとらえ、目の前の患者さんを通してその方の生活する地域を診たり、担当する地域を通して目の前の患者を診たりすることによって、医学モデルから生活モデルへの発展、つまり診察室から飛び出した取り組みを行うものであり、そこに地域医療の魅力が存在していると私たちは考えている。しかしながら、その方法論に関する学習機会や実践例に触れる機会は少ない。</p> <p>健康福祉計画「まめなかな和良21プラン」は、2004年に開始し、2009年に中間調査、2013年にまとめの調査を行い、死亡、疾病罹患率など「疫学的指標」とアンケート、グループインタビューから抽出した「住民の思い」をもとに地域診断を行い、外部の妥当性のある情報と統合し作成されている。参加される皆さんの地域においてどう地域医療を展開していくかの一助となるよう、</p>	